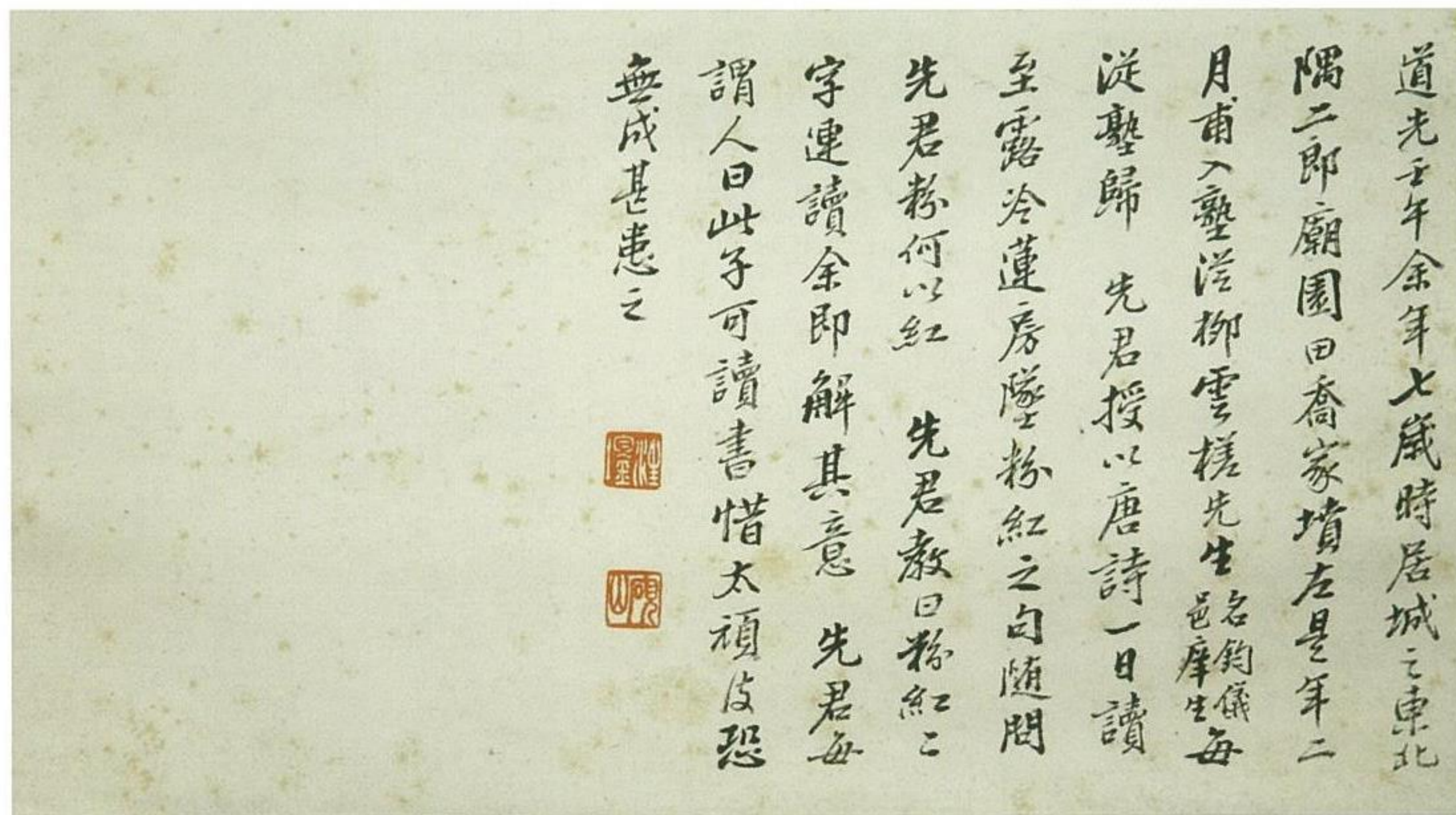


汪鋆 卯角授詩図 斗方並びに賛

清 紙本設色・紙本墨書 軸
各一八・〇cm×三〇・〇cm



〔略伝〕
嘉慶二十一年？（一八一六？）、字は研山、江蘇儀徵の人。詩に工で、書は金石を学び、画は山水・花卉に秀でた。著に『揚州画苑録』『十二硯齋金石過眼録』等がある。吳讓之とは師友の關係にあった。

〔釈文〕

〔画〕卯角／授詩
〔書〕道光壬午余年七歲時居城之東北／隅二郎廟園田喬家墳左是年二月甫入塾從柳雲樞先生名鈞儀邑庠生每／從塾歸先君授以唐詩一日讀蓮房墜粉紅之句隨問／先君教曰粉紅二字連讀余即解其意先君每曰粉紅之二／字連讀余即解其意先君每謂人曰此子可讀書惜太頑皮恐無成甚患之



部分図版



「汪鋆」
〔白文〕1.2×1.2
〔叢刊〕呉1-79
〔近現代〕上340



「硯山」
〔朱文〕1.2×1.2
〔叢刊〕呉1-79
〔近現代〕上341



「鋆印」
〔白文〕0.8×0.8

『叢刊』中、吳讓之が汪鋆のために刻した印は、五〇あまりを数え、この数は二人の密接な關係を示している。今、『近現代書画家款印綜匯』に載録される汪鋆の落款印は本作品に認められるものも含め、多くは吳讓之の印譜に載録されたものと重複する。

さて、汪鋆の画は遺例が少なく、『中国絵画総合図録』（東京大学東洋文化研究所東アジア部門美術研究分野編著 東京大学出版会 一九八三）等の大著にも掲載されない。僅かに『金石家珍藏書画集』（西泠印社 一九三五）に数点が載録され、ここに高野侯（一八七八～一九五二）の収蔵にかかる汪鋆六

七歳時の自画肖像「研山六七歳小照」が載録され、これには彼の風貌を見ることが出来る。

この「卯角授詩図」に見る「鋆印」（白文）一方は『近現代書画家款印綜匯』等にも載録されない。その使用例は少ないと考えられる。しかし、全く使用されなかったわけではなく、印刷不鮮明のために断定はできないが、先出の「研山六七歳小照」の自題に捺される印がこれに該当しよう。

さて、ここでいう「卯角」とは「つのがみ」もしくは「あげまき」と呼ばれる髪型のこと、転じて「幼童」のことを指す。そして賛には「幼童」である汪鋆七歳の学習について語る。彼の先生として登場する「柳雲樞先生」については管見に見出すことができなかった。言うまでもなく、画中の二人は汪鋆と柳雲樞先生。作品向かって左の「卯角」に髪を結び上げ、立たされたまま叱られているのが、七歳の汪鋆である。部分拡大図版を掲載しておく。

本作品は、極めて遺例の少ない彼の書画について考察するとき、一つの大きな基準となる。